

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

【事業所概要（事業所記入）】			
事業所番号	1072100470		
法人名	特定非営利活動法人緑風会		
事業所名	グループホーム大清水		
所在地	高崎市箕郷町柏木沢158-2		
自己評価作成日	令和2年6月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	令和2年7月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

小規模施設としての機能と役割を果たすために、利用希望者を可能な限り拒まずに利用者一人一人の生活の場所として職員協力してサービスを提供しています。
感染症予防には特に注意を払い、高齢者の共同生活の場として快適に過ごせるように心掛けています。
利用者一人一人の疾病等の状況を把握し、医療機関・訪問看護師と連携して安全安心な介護に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者や家族に対して、意向や要望を引き出そうと、事業所独自のアンケートを実施している。利用者に聞き取りで行う「嗜好・満足度調査」では、食べたい食事や飲みたいもの・好きなおやつ・好みの味等を聞いて、食事を楽しむことのできる支援に活かしている。介護計画更新時には家族にアンケートを提出していただき、ケアに対しての希望やホームに改善してほしいことなどお聞きして、介護計画の見直しに活かしている。その他、食事を楽しむための取り組みとして、利用者にごしらえや皮むきなどを手伝ってもらい、時にはカップラーメンを食べるなど食事に変化を持たせている。利用者の誕生日には、職員の手作りケーキで祝ったり、ひな祭りにはちらし寿司を作ったり食べるなど、昔から家庭の日常で行ってきたことを実践することで、利用者には、事業所が家庭であり、家族として思ってもらえるように、そして、そのことで理念が実践できるように努めている。

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設の基本方針・運営理念について、朝夕の引継ぎ時に勤務職員全員で復唱し、その意義について理解を深めるようにしている。	利用者が自分の家にいるようなリラックスした気持ちになり、職員は、家族のように思ってもらえるように声をかけたり、目配りをしたりしている。職員は与えられた仕事だけをするのではなく、利用者を一番に思った行動を心がけることで、理念の実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の清掃活動や、各種行事に参加して楽しんだり、散歩時には地域の方々と挨拶を交わすようにしている。	地域別のサロンや地域の筋トレ講習会に利用者の状況に応じて、職員と一緒に参加をしたことがある。現在は感染症予防のため、中止となっているので参加していない。地域の清掃活動に参加し、交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元地域のいきいきサロン等に参加し、認知症や障害者問題等の」話題に共に意見交換参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	出席者との意見交換から、介護問題等についての考え方を参考に検討したりしている。	事業所の運営状況や利用者の様子を伝える場としても、活用している。参加者メンバーには行政や民生委員以外にも、利用者が万が一無断外出してしまった時などの見守りのために、地域の方にも出席してもらっている。	家族の参加について、今後参加していただけるような仕組みや工夫を期待したい。議事録には事業所の報告だけでなく、参加者からの意見や要望等も記載していただきたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護等利用者に関係する関連部署担当者とは連携を密にして、当所のケアサービスの在り方を検討するように努めている。	支所まで近いので、報告や相談がある時には、よく出向いている。最近は給付金関係の件で、問い合わせをしている。生活保護受給者の方もいるので、金銭管理等でこまめに報告している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全安心のケアサービスに心掛け、利用者の側に立った観点から判断して、身体拘束のないケアの実践に努めている。	身体拘束のないケアの実践に努めている。排便が就寝中に多く、弄便行為がある方につなぎ服を着用していただいているが、外に出ようとする方に対しては見守りを行い、玄関の施錠はしていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員相互で情報の共有に努め、虐待のない介護を実践するようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者個々の人権を鑑み、その人らしい生活を送れるように対応している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所希望者との初期に契約上の必要な説明をしている。特に重要ポイントは注意して説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情等意見を書き込めるように窓口設置している。常日頃より、利用者家族とのコミュニケーションをとり、家族の要望を伺うようにしている。	3ヶ月に一度、家族にアンケート形式で、ケアについての希望、介護計画、ホームについて改善してほしいこと・気になる事など自由に書いてもらい、職員で供覧している。利用者には「嗜好、満足度調査」を行ない、食べたい食事や飲みたいもの等を聞き取り、食事に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝夕の担当職員引継ぎ時には、常に情報の共有に努めて職員間の要望意見を聞くようにしている。	管理者は、日常業務のなかで、また1ヶ月に一度のケース会議で、職員から意見や要望を聞いている。管理者も気づいたことがあれば、その都度伝えるようにしている。経験年数が長い職員が多く、互いの力量を信頼して日々仕事をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働き方改革を実行し、その趣旨に沿った職場環境づくりをしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得を進め、本人の意向を受け資格所得の支援をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	参加機会を得れば、積極的に職員の参加を進めている。講習研修の機会を有効にしている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新規利用者が入所する際には、生活環境の変化を伴うので、穏やかな生活が送れるように環境づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者家族の要望意見に耳を傾け、可能な限りの要望に応えられるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者及びその家族の意見に耳を傾け、よりベターな介護を受けられるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者とは、共同生活の場としての役割を果たすために、互いの信頼関係構築に心掛けてそれぞれの人権尊重をしていく。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との連絡は密にとり、要望意見は常に伺っている。アンケートも常に実施している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の希望をできる限り反映できるように、関係情報を確認して接遇できるようにしている。	家族には制限を設けず、来られる時に面会に来てもらっている。自宅にいた時に、よく通っていた近隣の神社のお祭りには、そのたびに職員と一緒に出掛け、顔馴染みの人と会うことで、繋がりを持ち続けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	快く日常が過ごせるように、利用者同士の交流状況を把握してそれを支援して。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者及び家族の要望に応えられるように努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	安全安心を旨に、できる限り本人の希望に添えるようにしている。	嗜好、満足度調査で利用者の意向の聞き取りをし、食事のこと以外でも入浴回数の希望等を聞いている。本人が言えない時には、家族から聞く時もある。一人ひとりの個性を把握するように心がけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人及び家族より、可能な限り生活歴等の受け止めに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活行動の把握に努め、ケアに活かすようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の生活・行動の把握に努め、職員同士の情報共有により計画ケア実施に反映させるようにしている。	個別日誌ファイルには、介護計画が挟んであり、いつでも職員が確認できる。サービス計画書第2表の他に、食事・排泄・入浴については、一人ひとりの状況や介護方法を介護計画内容説明という別表に詳細に記載して実践するようにしている。	日々の記録(個別介護日誌)の中で、記載した状況と計画したサービス内容が双方向に連動しあっていることが目で見てわかる工夫があると、現状に合わせた計画づくりに反映しやすいと思われる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常ケア記録を残し、そこから派生する状況も推察しながら介護計画に反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	小規模施設であることから、利用者本人の状況把握をもとにできる限りのケアに努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行政との連携はもとより、地域の活動行事にも対応して、楽しみの時間として活かしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	担当医とは常に利用者の疾病状況について相談し、必要に応じて診察を受けている。	入居時に、家族に希望するかかりつけ医を聞いているが、現在は全員が事業所の協力医をかかりつけ医としている。2週間に1回の訪問診察で、緊急時は往診も可能である。その他、専門医に受診している方もいる。また、訪問看護事業所からの定期的な訪問を受け、主治医への連携や健康管理を依頼している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションとの契約により、看護師との連携を大事に活かしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、担当医・看護師と連絡を取り、疾病治療状況について説明を受け、退院準備態勢をとれるように医療機関との関係性を重視している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族同意をもとに、終末期のケアについても対応できるようにしている。	看取りについての事業所の指針を、整備している。ホームでの看取りの事例は、約10年前に一例あった。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変時には、担当医・訪問看護師と連絡を密にして、救急対応を取っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練はもとより、周辺地域の方々より協力を得られるように努めている。	昨年10月には地震想定で、今年4月には火災想定で消火、通報、避難の総合訓練を実施した。避難場所としては、道路向かい側のお宅の庭に避難させてもらうように依頼している。避難訓練時には、一人ひとりの利用者をどの職員がどんな方法で避難させるのか等事前に打ち合わせをしている。	災害時の避難場所は地域の方に協力をいただき、具体化しているが、夜間帯など、職員の勤務状況に合わせた地域の方の協力体制について今後、具体化することを期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者は各個室を利用しているので、基本的に個人プライバシーは保持されています。故人の尊重はもとより、利用者の状況把握により対応しています。	利用者の気持ちを考えて、入浴時の介助は同性介護を基本としている。また、トイレを利用している時には安全面に配慮しながら、ドアを閉めるようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者本人の希望気持ちへ耳を傾け、本人の意思を感じ取りながら対応しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常生活はその人その人のものであり、本人の意思思いに耳を傾けて対応しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣は日常的に支援し、季節感も踏まえて正装できるようにケアしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者本人の嗜好好みを聞き取り、できるだけ希望を受け入れてます。準備・片付けのできる利用者には自らしていただき、職員と共にするようにしています。	食事は3食とも職員が交代で、野菜や肉など栄養のバランスを考えながら作っている。食事を楽しむことができるよう、献立に利用者の好みを取り入れたり、行事食を提供したり、少人数の特性を生かして、たまにはカップラーメンにおにぎり、漬物で食べることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の身体状況に注意を払い、栄養摂取のバランスはもとより、季節により水分補給には十二分に気を付けています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者の入歯等の衛生管理保管を実施し、食事ごとの口腔内清潔保持ケアをしています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者個々の排泄生活パターンを把握し、トイレ誘導により、より自立した支援をしている。	リハビリパンツを着用している利用者が多いが、トイレに誘導してトイレでの排泄を促し、ぎりぎりまでおむつの使用にならないように支援している。立ち上がることのできない利用者は、おむつを着用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の工夫や水分摂取に心掛け、必要に応じてかかりつけ医の支持を得る。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	事前に入浴予定表を組み、できるだけ本人が入浴の認識を持っていられるようにしている。	入浴時は、職員と利用者が1対1になれる貴重な時間なので、会話を楽しむようにしている。本人がお湯に入ることに気が進まない時は、シャワー浴や清拭で対応し、清潔を保っている。ゆず湯等季節的なお湯を楽しむこともある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活のリズムがもてるように日常生活を過ごし、穏やかな気持ちで就寝・休息が取れるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理は十二分に気を付け、医師の処方箋に従い服薬の支援をしている。服薬による症状の変化があればかかりつけ医と連絡を取り対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者本人の持っている趣味嗜好を理解し、できる限り本人の気持ちに沿うようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	時には昼食を外出した時にとり、外食を楽しむこともある、ドライブを兼ねて外出し、公園内散歩等もする。	大清水川の流れる聞こえるホームの周りの農道を散歩したり、車で水沢観音や浜川運動公園や芝桜公園など、親しみのある場所に出掛けている。外出時には利用者が家族としてきたように好きなものを食べて楽しむ支援も行っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には貴重品の所持はないが、個々の状況により金銭等の所持を支援する。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族等との電話は自由にでき、忌避相手には十分注意をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日が共同生活の場所として、有意義に過ごせるように配慮して生活空間も気を付けている。	家庭にいる時と同じように、ゆとりを持って過ごせるようにと考え、座る場所もソファや椅子などを設置し、好きな場所で過ごせるようにしている。窓から見える庭は、昔から馴染んでいる花やしそ、ネギ、ミョウガなども見え、自宅にいるような雰囲気を作っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士の相性も考慮し、居場所やくつろげる環境づくりに気を付けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の希望を受け、家族に相談して対応している。	一人ひとりの個性に合わせた部屋づくりをしている。事業所が提供するベットも安心安全を考えて、利用者に合ったものを提供している。利用者自身で、部屋の壁に塗り絵や写真などを貼っている方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者本人の気持ちを踏まえ、できる限り自立に向けた方法をとるようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容